

潮風と太陽の恵みを たっぷり受けて育つ 紀州田辺のみかん

1年を通じて約80種類の柑橘を収穫

田辺市のみかんは、紀南特有の温暖湿潤な気候を生かして栽培されています。温州みかんをはじめ、ポンカン・デコポン・はっさく・清見オレンジ・ネーブル・三宝柑などの晩柑類まで豊富な品種が栽培されており、ほぼ1年を通じて約80種類のみかんが収穫されています。一般的に「みかん」と呼ばれるのは「温州みかん」で、皮は薄くむきやすく、程良い甘さと酸味があることから、昔から親しまれています。その中で9月から収穫が始まるのが「極早生みかん」で、青さが残り酸味が少し強いのですが、すっきりとした風味とさわやかな香りが特徴です。10月頃から

は「早生みかん」へと移行していきます、その中でも、年末年始にかけて早生みかんをじっくり樹上で熟させた「木熟みかん」は、酸っぱさが和らぎ、甘味が一気に増し、コクのある味になります。温州みかんが終わる頃から出荷が始まるのが晩柑類で、様々な品種の特色ある味を楽しむことができます。紀州田辺のみかんは、栽培に適した気候であることに加え、生産農家の絶え間ない努力によって良質の柑橘類が生産され、全国トップクラスの品質を誇っています。田辺市柑橘振興協議会の法忍岳史さんは、「田辺市のみかん農家



さんは、やりがいを感じ、こだわりの持つてみかんづくりをしている人が多い」と言います。試験場でも新品種の研究をしており、そこには農家の方たちの経験と知識が必要で、共に協力を惜しまず取り組んでいます。柑橘栽培は、後継者が多く育っており、今後若い人たちの活躍が更に期待できる産業でもあります。



Tanabe's citrus cultivation takes advantage of the region's uniquely warm and wet climate. Approximately eighty varieties of citrus are grown throughout the year. In many communities, citrus cultivation is passed down through generations, and has been entrusted to its capable new youth generation.



田辺市柑橘振興協議会
会長 法忍 岳史さん